

「櫛が峰(雪洞訓練)」

2018年3月3日(土)～4日(日)

参加者 秋葉、渡辺(敏)、甲高、の3名

用具を会の方からレンタルしても経験を積みたいという思いが強く、初の雪洞訓練に参加しました。(感謝申し上げます)

前日の猪苗代は雪(しかも吹雪)でしたが、当日は絶好の快晴。木々の雪が綿帽子となり雪国の美しさを際立たせていました。裏磐梯スキー場からスタート。とここでアクシデント

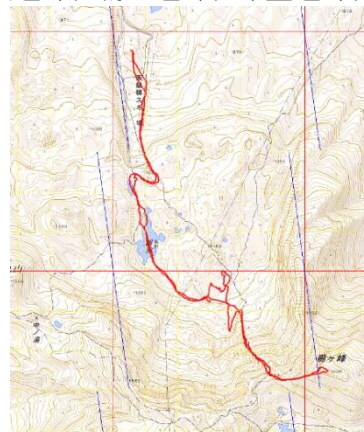


発生。秋葉さんのスノーシューのゴムバンドが劣化のために切れてしまいます。そこで窮地の策として、渡辺さんの持参したナイロンひもで縛りますがこれが大正解。秋葉さん曰く「こっちの方が断然いい」。そして銅沼へ。樹林帯から一気に視界が開け、正面には磐梯山火口壁が圧倒的な存在感で迫っ



てきます。その後、いくつかのグループ(ツアーが多い)の踏み跡に別れを告げ、雪洞予定地を見つけに向かいます。手頃な斜面で大型ザックをデポし、アタックザックで櫛が峰へ向かいます。これがきつい。2人のスピードについて行けない。稜線(櫛が峰と本峰の鞍部)でスノーシューを脱ぎ、赤い土と黄色い岩、白い雪を踏みしめて山頂を目指します。が、やはりついて行けない。やっとの思いで山頂へ。眺望は絶好。猪苗代湖、那須連峰、朝日連峰、飯豊連峰、

月山までクリアに見えて素晴らしいの一言(しかし風が強い)。風を避けて昼食をとり雪洞予定地へ向かいます。雪洞は約2時間かけて完成。早速宴会開始です。レトルトおでんと冷凍うどんという絶好の肴に舌鼓を打ち、ひたすら強めのアルコールを胃に流し込みます。早めの就寝で10時には目が覚めてしまい、天の川を期待して夜の雪原へ出ます。しかし、一六夜の月映え。視野一面が青白く光り、「キーン」という静寂の音に包まれていました。翌朝も快晴。前日の観光客で無残に踏み荒らされた雪原をとぼとぼ歩いてスキー場に向かい、誰もいないグレンデを下ってレストハウスに到着しました。



3月3日 裏磐梯スキー場 9:06→雪洞予定地 10:20→櫛が峰 12:00→昼食 12:05～12:23→イエローフォール 13:15→雪洞作り 13:45→完成 15:32 3月4日 スタート 7:02→裏磐梯スキー場 8:13

(文責：甲高 学)

小野岳 1383m

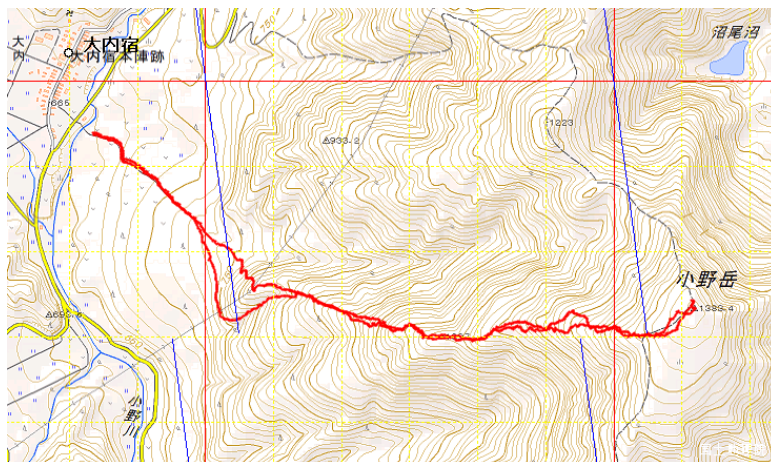
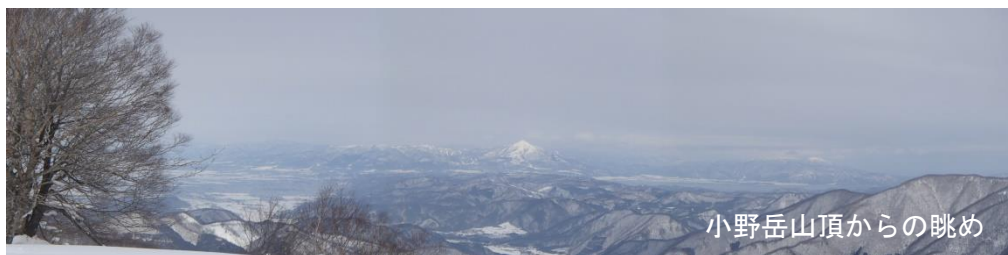
2月27日（火） 秋葉、渡辺（敏）

大内宿裏山の烏帽子岳に登った時、大内宿から目の前に見える小野岳の西尾根から登れるのではないかと、秋葉さんと話し合っていた。28日からは天気が崩れる予報だったので、前日に西尾根から小野岳に登ることにした。夏道は小野岳の北西方向から伸びている尾根沿いにつけられているが、尾根の途中にピークがありいったん下って登り返さないといけない。スキーで登る場合、下ってさらに登るのは厄介である。大内宿から直接登るこのコースは途中に下りはないので都合がよい。

大内宿入り口の駐車場の先から川を渡って水処理場の脇に車を止めて登り始めた。天候は風が弱く薄日が差す登山日和である。尾根上に出るまでは傾斜が急で結構苦戦した。尾根に出て尾根沿いに進むが、急斜面が出てくると雪が締まっていな



いところもあり、キックターンの時足元が崩れストックで体を支えるが、ストックが雪の中に埋もれ体を支えられず難しいところが結構あった。それでも順調に進み 3 時間弱で頂上に到着した。北側の見晴らしが素晴らしく、磐梯山、猪苗代湖、それに会津盆地が一望に見渡すことができた。頂上には夏道沿いからの登山者の足跡があった。帰りは 50 分程度で車のところに到着できた。



登山口 9:25→鉄塔 9:55
→山頂 12:18 12:57→
登山口 13:48

文責：渡辺敏夫

「二岐山へ山スキー」

2018年2月20日(火)

山名 二岐山 (天栄村と下郷町の境界)

参加者 秋葉、馬場、栗崎(透)、栗崎(容) 計4名



前回参加の山スキー(会津・烏帽子岳)の際に、もう一つの山の候補であった二岐山での山スキーに参加してきました。

とても楽しみにしていたのですが、当日出発直前に私の胃腸具合が悪くなり青色吐息の車内。何とか冬季限定の取りつき地点(二岐温泉手前の林道わき)からスキー登高を始めたものの、皆さんにたっぷり遅れをとりギブアップ。予定のシール登高地点より200mほど里寄りの標

高1,180m 辺りまでとなってしまいました。

この地点には両手を広げて子供を抱きしめようとしているようにも見える「マザーツリー」と呼ばれる大きなブナの木があります。曇天&体調不良ながら、途中からチラチラと青空も覗く中、見事なブナの木々に癒されながら登りました。この地点で昼食休憩を取り、その後

シールを外しスキー滑降。たっぷりめの重めの積雪に翻弄されながら、何とか滑り降りてきました。いつかリベンジしたいです。(文責 栗崎容子)



「日光雲竜溪谷」

2018年2月11日(日)

参加者 秋葉、甲高、松本(登山教室)の3名



登山教室で2月11日(日)に予定していた計画です。いわきサンシャインマラソンと重なったためか参加者が集まらずいったんは中止になったのですが、日光雲竜溪谷への思いやまず秋葉さんをお願いしての山行となりました。

5時に勿来を出発し、滝尾神社に7時30分に到着。駐車場はギリギリの残り1台分が開いていてラ

ッキーとばかりに駐車しました。7時40分にスタート。しばらくはアイスバーンの車道歩きが続きます。しかし、ここはアイゼンなしでも十分でした。

40分ほど歩くと雲竜溪谷の車止めのゲートに到着します。ここが河原と車道の分岐になりますが、我々は迷わず河原歩きを選択します。はじめは山道歩きの趣きですが大堰堤を越えると本格的な河原歩きとなります。ここで、12本アイゼンを装着。河原の南斜面は最近の暖かさで土が露出して、美しい光景とはほど遠い



ですが、北側は氷と雪があってコントラストがはっきりしています。踏み跡ははっきりしておりコースに特に危険なところはなし。やがて洞門岩の階段を下るといよいよ本格的な氷柱群があらわれます。溪谷の深部に荷物をデポして最後の雲竜瀑へ向かい写真を撮りました。時期的に遅くもあり雲竜瀑はやや痩せているとのこと。天候も良いため気温も高く、時折「バキッ」と氷のきしむ音と「ドサッ」という崩落の音が聞こえるのが気になります。昼食を済ませ、下山は長い林道歩きとなります。行きの河原歩きでも帰りの林道歩きもアクセントの少ない単調な歩行でしたが、秋葉さんの「山

行にはいかにお酒(ビール)が重要であるか」というテーマでの講義を拝聴しながらの山歩きで時間はとても短く感じられました。

滝尾神社7:40→ゲート8:20→洞門岩→10:55→雲竜瀑→昼食11:40
滝尾神社14:15

1 月登山教室山行「吾国山・難台山・愛宕山縦走」

2018年1月14日（日）

参加者 受講生 10 名 会員 9 名

筑波東連峰 3 座を、笠間の「吾国山」よりスタート。「田上農村集落センター」にてバスを降り、田んぼの真ん中にある大きな鳥居をくぐって、朝日を浴びたのどかなあぜ道を 10 分ほど行くと、山道へと入る。雑木林をぐんぐん登ってゆくと、50 分でカタクリ群生地「吾国山」に到着。山頂には神社がまつられ、明るく展望が良い頂からは、白い日光男体山・白根山の山なみが。そして富士山まで！！さわやか気持ちでなぜか万歳三唱。そこからいったん 30 分ほど下り道祖神峠へ。そこからは登り下りを 2 度繰り返しながら、1 時間で難台山へ。山頂は原っぱのように広くゆったりしていて、のんびり山ランチ。その後は 2 時間半ほどかけ「愛宕山」までほぼ下り。道中に「屏風岩、獅子ヶ鼻、団子石」などの巨岩があり、岩にのぼったり、団子の食べマネをしてわいわい写真撮影。途中「南山展望台」



に立ち寄り、関東平野や陽に輝く霞ヶ浦を眺める。

最後に創建 806 年と歴史のある日本 3 大火防の神さま「愛宕神社」へお参り。お宮への長い石段を登ると、ここにきて急激な左足の攣り。あわてて手すりにしがみつき、ヨボヨボな姿を仲間に写真に撮られるが、もう笑う余裕がない。とりあ

えず天狗伝説もあるという、この健脚な神様に、はやく足がよくなりますように…！と祈願して、岐路に着きました。

全体的にみてこの縦走路は、アップダウンはあるものの、登山道はよく整備されていて、道標も多く、ゆったりと道幅の広いところも多いので、仲間でわいわい話しながら、のんびり山歩きが楽しめます。また春は、吾国山のカタクリ、愛宕山の中腹から頂まで咲きほこる桜、難台山のすずらんの群生と、花見登山におすすめの山です。



（吾国山登山口 8：20）～（吾国山 9：40）～（道祖神峠 10：25）～（難台山 11：30）

（南山展望台 13：50）～（愛宕山 14：40）

（文責：吉田）

福島の桃源郷 花見山

2018年3月18日

秋葉信夫、山縣、菊地、芳賀、斎藤、他12名



夢想山の会3月々例山行に便乗参加しました。福島市渡地区にある花見山公園はすべて農家の私有地であるこの地域では日当たりの良い丘陵を利用した花卉園芸が盛んで、花々が本格化する時期になると、生産農家の協力のもと花卉園が一般に解放されている。

その中心が阿部家の花見山である。「美しい花を自分たちだけで楽しんではもったいないと」思い、1959

(昭和34)年、「花見山公園」と名付けて無料開放し、遊歩道やトイレ、休憩所、展望台なども自己資金で整備した。

この地を訪れた写真家の秋山太郎が「福島に桃源郷あり」と称賛し、作品を発表し多くの人に知られることになった。

桜の最盛期にはちょっと早い、サンシュユ、マンサク、ヒュウガミズキ、トサミズキ、梅、花桃、10月桜、ロウバイ、マンサク等が咲き、その向こうには蔵王、栗子、吾妻、安達太良の峰々が白銀に煌めいている。言葉通りの別世界が目の前に広がっている。

依頼していた「花案内人」の話は内容が濃いにもかかわらず、分かりやすく素晴らしい説明でした。おまけにお土産の花も頂きました。ありがとうございました。

例年桜の最盛期は4月10日前後ですが今年は、早くなるの



ではないかとのことでした。次々に花が咲くのでその時期でなくとも楽しめますし、コースも色々あるので是非出かけてみてください。

夢想山の会の冬は「鍋山行」。山行は午前中で終了したので、飯野町の千貫森公園に移動し鍋を楽しみ、入浴。帰路は川俣の道の駅、

岩代の道の駅、三和の直売所に寄りました。



文責：秋葉

スキー合宿（長野県菅平エリア）

2018年3月5日～8日

秋葉信夫、渡辺敏夫、馬場和夫、山内喜郎、浅野悌治郎、秋葉幸夫

遠征してのスキー合宿も今年で7年目を迎えた。石城山岳会の山スキー愛好者が増える事を望んでスタートした当時、山スキー経験者は4～5名だったと思う。毎年技術向上をめざし、後継者育成にも努力された結果、増えている事は喜ばしい限りである。

1日目(3/5)月

昼前にホテルに到着し、昼食をとりながら雨が止むのを待っていたが、ガスも濃く、滑れる状態ではない。恨めしく空を眺め、ホテルで停滞した。

1日目(3/6)火

根子岳に向けてシール登行



林道を車で菅平高原の標高 1400m 付近まで行き、ここからシールを付けて根子岳に向かう。昨日とうって変わって快晴だ。最初は傾斜も緩く、遠くの山並みを眺めたり、周囲の霧氷に癒され快適にスキーを運ぶ。

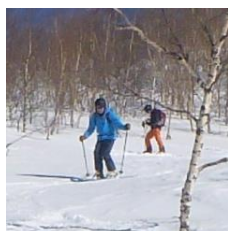
途中まで6名全員で行動していたが菅平牧場ゲートに到着したとたん牧場管理人が現れ、牧場敷地内の駐車は全面禁止だから戻れ、という。どんなに頼んでもダメの一点張り。「俺もいわき出身だ」と言っていた。止むなく馬場さんと渡辺さんには戻ってもらい別行動になり、4人での行動となってしまった。

3時間ほど歩いたところでランチタイムとする。ブナ林に囲まれた平坦な場所にスコップでテーブルを作る。まず

信夫持参のワインで元気回復し 2207m の根子岳尾根に向かう。稜線にでると、昨日の雨が凍りつきアイスバーンで、シール登行は不可能と判断、滑落しないように細心の注意をはらい林間に回り込む。



信夫のツリーラン



山内さんのツリーラン

ようやく滑走可能な雪質に出会い、みんなで次々とツリーランを楽しむ。最後にガス入スキー場に出たので、明日のレッスンには参加出来ない山内さんにワンポイントアドバイスをしながらリフト乗り場に滑り込んだ。

まもなく、リフトに乗らず直登し、アイスバーン厳しい根子岳に登頂を果たし帰還した渡辺・馬場組と合流し本日の滑降終了とする。



浅野さんのツリーラン



幸夫のツリーラン



登頂した馬場さんと渡辺さん

3日目(3/7)水

今日は四阿山にスキーツアーの計画であったが、アイスパーン厳しく登れそうにないのでレッスン日とする。

本日の担当は今回初めて参加して下さった私のインストラクター

仲間浅野さん、毎年ニュージーランドやヨーロッパに長期滞在する。 午前はダボスエリアで基礎をしっかり教えて頂き、午後は太郎ゲレンデの急斜面を存分に滑りながらのレッスンやアドバイス、特に先生のすぐ後ろを一人ずつトレーンでの滑りは、先生の姿勢やポジション、リズム感などを盗むことで大きな収穫があった。



おまけに素晴らしい天候に恵まれ、レッスンの合間に眺める北アルプスの山並みの美しさは息をのむ、口では表現出来ないほどの絶景だ。



バックは左根子岳、右四阿山

左から槍・針の木・立山・劔・ 鹿島槍・五竜・唐松・白馬三山・戸隠連峰と、我々にとっては登ったことのある山々で感慨もひとしおであった。



バックは北アルプスの山並み



スキーの後は毎日反省会
今日はスマホナビの勉強会。山ナビの進化著しい。なかも Geographica は No.1 アプリだ。使いこなしたい。

4日目(3/8) 木 最終日

福岡から参加の山内さんが帰途についたので本日は5人となる。朝からガスだったが、熱心な参加者たちは雨が降るまでレッスンしたいということで、私がレッスンを担当した。

足場づくりや今年度のSAJテーマである外足の力動感やリズム感について練習した。重点レッスンのあとは山スキーで危険回避の為にギルランテ、横滑りそしてベンディングターンなどをトレーニングし、11時30分、雨が降ってきたのでレッスン終了とし帰路につく。



福岡から初めて参加した山内さんからの便り

初日の雨が惜しまれますが秋葉先生・浅野先生のご指導により急斜面でも暴走することなく余裕を持って滑ることが出来るようになりました。戴いたDVDを見たら、すぐに実践したくなりました。

根子岳を目指しての山スキー。北アルプスの山々が遠くに連なり素晴らしい眺めでした。標高2000mを超えたあたりから、雪がクラストしていて危険、ということからスキー場側にトラバースして下りる事になりました。

今年初めてのオフピステで緊張しましたが、昨年信夫会長に教わった横滑りなどを思い出しながら何とかついて行く事が出来ましたが、夜になると足はパンパンでした。林の中や雪原の大自然を満喫しながら気持ちよく滑れました。「山スキーをやればスキーの楽しさは3倍になる」という信夫さんの言葉の意味がよくわかりました。

浅野大先生には基礎の基礎からじっくり教えて頂き我流の悪い癖が少し修正できたと思います。

この合宿で私のシーズンは終了ですが、シーズンが続く皆さまがうらやましい限りです。

来年も是非参加させて下さい。本当にありがとうございました。

スキー合宿日程

5日(月) 水石ツル 6:00→白河中央 IC7:00→上田菅平 IC10:00→菅平高原 11:00 大雨でホテルで停滞

6日(火) 根子岳に向かう 1400m10:00→1595m11:00→2000m14:00→ダボススイートリフト乗り場 15:00

7日(水) 午前 DAVOS AREA でレッスン 午後 TARO AREA でレッスンを兼ねて滑走など 16:00 まで

8日(木) 午前 DAVOS AREA で山スキーレッスン 菅平 IC12:30→白河中央 IC16:00→水石ツル 17:00

(文責・会友 秋葉幸夫)

「山スキー山行」

日時 3月13日(火)

参加者 秋葉、渡辺（敏）、馬場、栗崎（透）、栗崎（容）、松本
（箕輪スキー場（リフト使用）→鉄山避難小屋→国道115号）

初めてのスキー山行に参加させて頂きました。
天気は快晴。若干の風はあるものの青空の下、箕輪スキー場よりリフトを2本乗り継いで9:50登山開始。
シールを着けてのスキー登山もちろん初めての体験ではじめは勝手が分からず一歩踏み出してはズルズルと下がり落ちる状態でした。その様子を見て板を上げずに滑らせるようにする事、またストックをつく位置などを丁寧に教えて頂きなんとか登れるようになりました。



箕輪山を左手に眺めながら鉄山避難小屋を目指します。最初は急登でしたが徐々になだらかな登りとなり、途中キラキラと光るシュカブラの美しさに見とれながら歩を進めました。
鉄山避難小屋に11:00着。小屋付近は強風でしたが避難小屋の中で食事を取れたのでとても助かりました。



12:00より下山開始。いよいよ人生初の山スキー滑走。真っ白の磐梯山、桧原湖を眺めながら滑ります。しかし、グレンデにはない木々や岩を避けて滑るのに四苦八苦。でもこれも山スキーの醍醐味なのですね。

気持ちよく滑っていたらどうやら予定の尾根より南の尾根を滑り降りていたようです。若干登り返しをした後 13:30 に無事に予定の国道 115 線に滑り降りる事ができました。

新雪の深雪でもなく、カチカチのアイスバーンでもなく適度に締まった雪質の中天気にも恵まれ最高の山スキーデビューとなりました。

足手まといの初心者と一緒に登って下さった先生方、本当にありがとうございました。機会がありましたらまた参加させて頂きたいです。

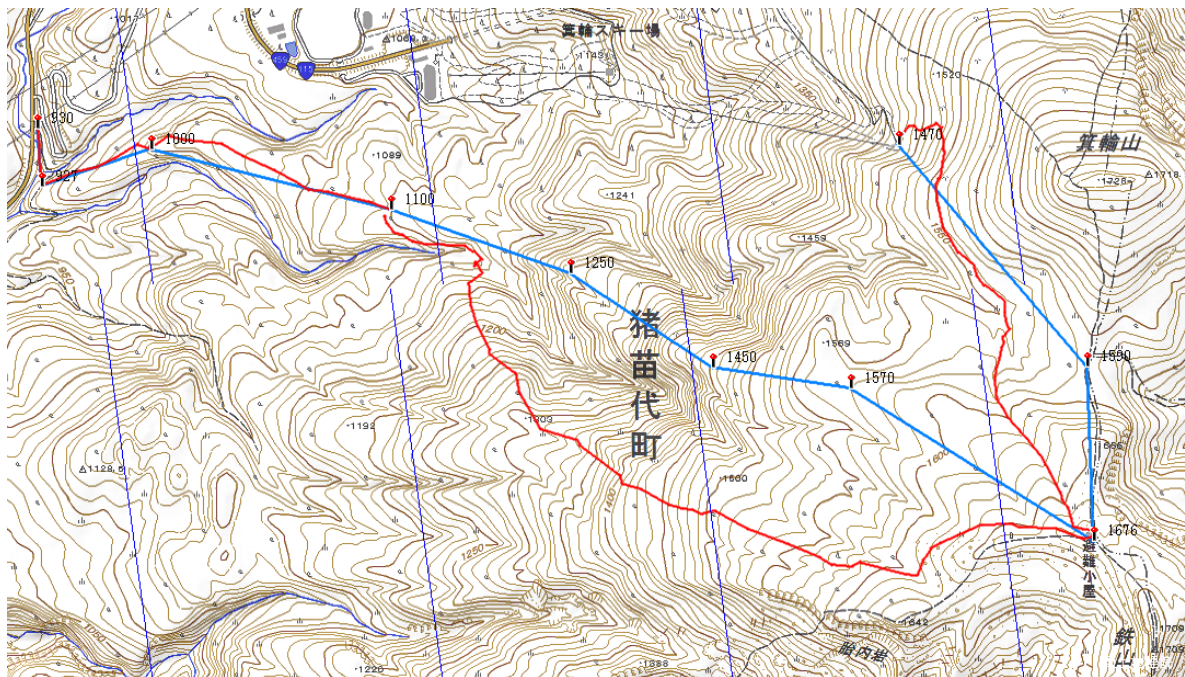


(文責 松本 恵理子)

鉄山西尾根

青：予定ルート

赤：実際のトラック



磐梯山東尾根山スキー

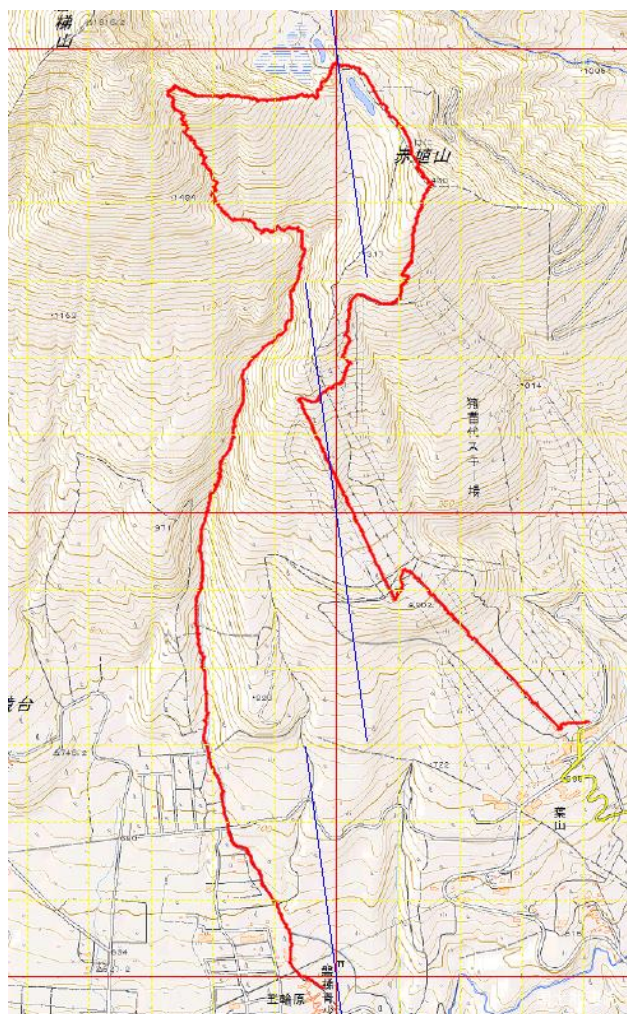
3月20日（火）

秋葉（信）、秋葉（幸）、栗崎（透）、栗崎（容）、馬場、渡辺（敏）

前日の19日は天気が悪いが、20日は天候が回復する予報だったので出かけた。家を出るときはまだ雨が降っていた。猪苗代スキー場の中央グレンデからリフトを乗り継いで終点まで行き、そこからシールを付けて歩き始めた。ガスがかかり見通しはきかない。まずは赤埴山までの登りである。ミネロのスキーリフトを利用できればもっと高いところから登り始められるが、ミネロは18日でクローズされている。赤埴山から鏡沼までの下りはシールを付けたまま下るので、慣れないとなかなかうまく下れない。天候は次第に良くなり、東尾根に登るころには日差しも出てきて、猪苗代湖が望めるようになってきた。東尾根に突き上げている沢の最高点の手前まで進み、そこから沢沿いに滑降を始めた。鏡沼から始まる沢の合流点までは快適なハーフパイプ状の滑りで、皆さん堪能しながらそれぞれ思い思いに滑った。沢の合流点から磐梯青年の家までは、沢の幅が狭く雪解けも進んでいるので難しいところが何か所かあったが、無事青年の家まで滑ることができた。ロングランの楽しい滑りでした。

馬場さんには到着点までの車の移動等の我々の送り迎えをして、裏方に回っていただきました。ありがとうございました。





コースタイム

スキーリフト最終点 9:20→赤埴山
 10:51→東尾根取り付き 11:37→昼
 食 12:19 12:39→東尾根最高点滑
 降 13:16 13:27→磐梯青年の家
 14:50

文責：渡辺敏夫